

IBMによる従来の電子メールと最新のエンタープライズ・ソーシャル・ソフトウェアの統合

参照コード：IT013000193

発行日：2013年2月11日

作成者：Richard Edwards

Ovumの見解

サマリー

Lotusブランドに幕が引かれることが、毎年開催されるIBM Connectコンファレンスで先週発表されました。そして、皮肉にもそれと時を同じくして、同ブランドの産みの親である製品が、販売開始から30周年を迎えたのです。IBMのパーソナル・コンピューターにとって初めての「キラー・アプリケーション」となった、Lotus 123です。IBMのパーソナル・コンピューターは(消費者向け広告を通じてビジネス・プロフェッショナル向けに販売され)、企業の情報技術に対する考え方とその用途に変化をもたらしました。IBMは、Microsoft Office 365やGoogle Apps for Businessに対抗して、向上したSmartCloudポートフォリオを市場に直接投入することにより、もう一度市場を賑わせたいと考えています。1993年に開催された初めてのLotusphereのテーマは「Working Together (連携)」でした。IBM Connectコンファレンスでもこのテーマが引き続き取り上げられ、IT部門に人気の高い技術コンテンツと、組織がソーシャル・ビジネス戦略を促進するために必要とされる、ビジネスにおける洞察との統合について検討されました。

IBM NotesとDominoの新バージョンでMicrosoftを凌駕

OvumはIBMの過去4年間のコラボレーション・ポートフォリオに対するアセスメントを実施し、IBMが技術的能力においてその分野で抜き出ていると評価しました。また、過去3年間の予測収益では、IBMのエンタープライズ・ソーシャル・ネットワーク・ソフトウェアがリードしました。しかし、この分野におけるIBMの技術的能力は確かであるにもかかわらず、エンタープライズ・コラボレーションとメッセージング市場でのIBMのシェアは下がり続けています。NotesとDominoの顧客が他のオファリングに乗り換えているためです。

Ovumの企業顧客によると、Lotusブランドの製品、特にNotesとDominoからの乗り換えは、目新しさとイノベーションに欠けているとの認識を持たれていることがその主な原因との話です。NotesとDominoは、最初のリリース以降、何度も更新を重ねてきましたが、現在のメジャー・バージョンのリリースは2007年8月にまで遡ります。現代のソフトウェアが進化する速さを考えると、はるか昔のことだと言わざるをえません。しかし、今年のIBM Notes/Domino 9.0 Social Editionの発表に伴って、こうした認識は一掃されるかもしれません。この製品は、2013年3月にリリースされることから、IBM Connectionsに向けた「ソーシャル・メッセージングの架け橋」を完成させることになるでしょう。そして、これはソーシャル・ビジネスの促進、運用の効率化、組織の思考力と学習力の向上を図るうえで欠かせない架け橋であるとOvumは確信しています。

一方、Outlook 2013 (2013年1月29日リリース) は、いまだにSharePointとの最低限の統合しか提供していません。また、OutlookとYammerをつなぐ架け橋となるソーシャル・メッセージング製品のリリース日も発表されていない状況で、Microsoftはこのイノベーションにおいて遅れを取っているように見えます。

IBMのConnectionsのお客様は80%がNotesとDominoを使用していません

IBM Connectionsは、Web 2.0形式のビジネス・ソーシャル・ソフトウェア・スイートであり、Jive SoftwareやYammer (現在はMicrosoft Office部門の傘下) といった製品との厳しい競争にさらされながらも、エンタープライズ・ソーシャル・ネットワーク市場で良好な収益を上げ続けています。コンファレンスでは、IBMのソーシャル・コンピューティング・ソフトウェア担当VPであるJeff Schick氏が、Connectionsの使用事例(HSBCによる世界各地の約385,000人の従業員へのConnectionsのロールアウトなど) や今後の展望(統合文書管理、モバイル機能の強化、およびWebsphere PortalとCognos (IBMのBIプラットフォーム) との統合) についての包括的な洞察をパートナーとお客様に示しました。しかし、Ovumの注意を引いたのは、IBMのモバイル・エンタープライズ・マーケティング・ディレクターであるEd Brill氏による統計でした。同氏は、Connectionsの顧客の80%がNotesとDominoを使用していないことを示しました。これは、それらの顧客がおそらくMicrosoft ExchangeとOutlookを使用していることを示唆するものです。

OvumはIBMのソーシャル・ビジネス・ソフトウェアへの取り組みを高く評価します

IBMは、Exchangeの電子メールと予定表の情報をConnectionsと統合する取り組みにおいて明らかに優れた仕事をしており、結果としてビジネスを勝ち取っています。一方、Outlook Social Connectorは当初、将来性を見込まれていたにもかかわらず、Microsoftはエンタープライズ・ソーシャル・ネットワークの領域で同テクノロジーに対する実質的な支持を得ることに失敗し、現在はベンダーであるHarmon.ieが、多数の企業に対して暫定的ソリューションを提供している状況です。Microsoftが最近の一連のリリースで見られたうわべだけのOfficeの更新を超えるものを提供できなければ、IBM (独自のWebベース・エディターであるIBM Docsを最近リリース) やGoogleなどの企業によって、Microsoftのテリトリー (特にそのクラウド・ベースのOffice 365製品) でますますシェアを奪われることになるでしょう。その一方で、IBMの次の大きな課題は、広い人脈を持つ従業員が消費者ペルソナに向き合う方法を見つけることです。これによりIBMは、その製品の評価を損ない続ける負の要因を払拭することができるはずですが。

付録

作成者

Ovum Enterprise IT、プリンシパル・アナリスト、Richard Edwards

richard.edwards@ovum.com

[特記事項] All Rights Reserved.

出版者であるOvum (Informaグループ) の事前の承諾なくして、本書のいかなる部分も再版、検索システムへの登録、または電氣的、機械的、光学的、磁氣的など何らかの方法による転送をすることはできません。

本レポートの情報は発行時点において正確であると判断されたものですが、それを保証することはできません。Ovumは、一次ソースと二次ソースの両方から誠意をもって収集された情報に基づき、発見事項、結論、および推奨事項を提供していますが、その正確性を常に保証するものではありません。Ovumは、いずれかの情報に基づいた行動に関するいかなる事象にも、その後その情報に誤りがあることが判明した場合であろうと責任を負いません。

IBMによる従来の電子メールと最新のエンタープライズ・ソーシャル・ソフトウェアの統合 (IT013000193) 2013年2月11日

© Ovum. 無許可で複製することは禁じられています。